

神奈川県協同組合連絡協議会

かながわC☺-ネット会員組織 御中

2023年3月20日

2019年4月から開始しました当通信ですが、みなさまのご協力により、いよいよ100号となりました。100号にあたり、共同代表よりメッセージがあります。

日頃よりかながわC☺-ネットの活動につきまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

コロナ禍で「協同組合のつどい」をWeb開催するなど工夫して実施してきましたが、なかなか皆さんと直接お会いする機会が持てませんでした。昨年3年ぶりで交流行事「夏休み地引網体験」を開催することができ、やはり人のつながりが協同活動の基本であると改めて感じました。少しずつですが実開催に向け取り組んでいきますので、ぜひ参加いただければと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

かながわC☺-ネット代表

神奈川県生活協同組合連合会 代表理事会長 當具 伸一

神奈川県農業協同組合中央会 代表理事会長 大川 良一



県生協連 當具会長



県中央会 大川会長

フードバンクかながわへの寄贈等、食支援の取り組み

各会員組織では、フードバンクかながわをはじめ、社協や地域で活動するフードバンク組織、子ども食堂と連携したフードドライブ活動等、食品ロス削減・食支援の取り組みを行っています。

その一部をご紹介します。

【三浦市農協が子ども食堂「よこすかなかながや」へ寄贈】

三浦市農協は、昨年5月に「横濱ハーバー 三浦こだわりかぼちゃパウンドケーキ」、1月中旬に出荷規格外のニンジン、1月下旬に「神奈川6種の彩りハーバー」を横須賀市にある子ども食堂「よこすかなかながや」に寄贈しました。パウンドケーキとハーバーは賞味期限が近付いたもので、賞味期限が近付いたものや出荷規格外の提供は食品ロス・廃棄ロス削減にもつながっています。同食堂では定期的に食材の無料配布「フードパントリー」を実施し、困窮している世帯の支援につなげています。

【JA横浜せり市運営委員会が「はるみ」を社協へ寄贈】

JA横浜せり市運営委員会は、2月下旬、市内産米の「はるみ」74袋（1袋5kg）を都筑区社会福祉協議会へ寄贈しました。同委員会は生産者や市場関係者の生活を守るため、コロナ禍でもせり市を続け、その結果、新規客の獲得や売り上げも増加したことから、その感謝の気持ちを地域の人に還元したいという思いで寄贈を決めました。同社協を通じて、高齢者世帯への配食や子ども食堂を実施しているボランティアグループへの配分など、困窮世帯への食支援に役立てられます。

【パルシステム神奈川が「おもいやりセット」で支援】

パルシステム神奈川は、「フードドライブに提供できる食品がないときでも支援ができるしくみがあれば」との組合員の声から、「おもいやりセット（右の写真）」をつくり、組合員が「おもいやりセット」を注文するとそれがフードバンクかながわに届けられる取り組みで、2022年度は2回実施し、約4tの食品を寄贈しました。



おもいやりセット

【神奈川県労福協が「マッチングギフト」で米を寄贈】

神奈川県労福協は、昨年10月～今年3月末の期間、結成50周年記念事業として「お米一合運動マッチングギフト」を展開し、フードドライブ等で集められた食品と同重量の米4,230kg（2月末現在）をフードバンクかながわに寄贈しました。

<フードバンクかながわへの寄贈>

事業者寄贈	ユーコープ、ナチュラルコープ・ヨコハマ、パルシステム神奈川、生活クラブ生協、J A よこすか葉山
防災備蓄品寄贈	厚生連、J A 神奈川県中央会
フードドライブ	ユーコープ、ナチュラルコープ・ヨコハマ、パルシステム神奈川、生活クラブ生協、うらが CO-OP、富士フィルム生協、県生協連、地域の労福協、J A 横浜各支店、J A 横浜女性部、J A さがみ、J A さがみさわやか倶楽部（女性組織）、J A 湘南女性部、J A はだの女性部、J A 神奈川県中央会
米一合運動・プロジェクト	神奈川県労福協、地域の労福協、ユーコープ各エリア会
募金活動による寄付金	J A 横浜女性部

* フードバンクかながわ通信より 2022 年 6 月～2023 年 2 月の寄贈。

複数回数寄贈している組織もあります。

* J A 横浜たすけ愛の会（ボランティア活動等を行う助けあい組織）は、フードバンクかながわで食品の仕分けボランティアを行いました。

参加募集

イベント・セミナー等のご案内

～生活クラブ生協・神奈川大学寄付講座が 4 月に開講～

生活クラブ生協は、神奈川大学で市民の方も参加できる連続寄付講座を開催します。

本講座は今年で 12 年目となり、社会動向や歴史的経緯を踏まえながら、協同組合運動の理論や非営利・協同セクターの実践（参加型福祉・たすけあい、ワーカーズ・コレクティブ運動、エネルギー、震災復興など）を学び、社会課題を解決する協同組合と非営利・協同セクターの展望について考えていきます。

日 程：2023 年 4 月 12 日～7 月 19 日の毎週水曜日 13:30～15:10（5 月 3 日は除く）

場 所：神奈川大学横浜キャンパス

参加費：無料

申込期日：2023 年 3 月 31 日

詳 細：チラシをご覧ください。



寄付講座チラシ

➤**新型コロナウイルス感染症による社会への影響が続いています。会員組織での困り事をはじめ、告知を希望する行事、提携事例等がありましたら下記までご連絡下さい。**

<担当事務局連絡先>

J A 神奈川県中央会 総務企画部(担当：杉本) TEL 045-680-3001 sou-ki@chu.kn-ja.or.jp

神奈川県生活協同組合連合会（担当：相田） TEL 045-473-1031 Yuji.Aida@ucoop.or.jp

神奈川大学寄付講座

SDGsに取り組む 協同組合・市民事業を知ろう

受講者
募集中



▲東日本大震災・復興まつり2022。支援から共生への転換をテーマに、被災地団体、生活クラブ、非営利・協同セクター、提携生産者が協同で実施しました。

生活クラブ生協・神奈川が神奈川大学で、市民の方も参加できる連続寄付講座を開催します。本講座は2023年で開催12年目を迎えます。

現代の日本では、経済や社会システムの停滞が格差・貧困など様々な問題を引き起こしています。こうした問題の解決にむけて、協同組合やNPOなどを始めとした「非営利・協同セクター」が様々な活動・事業に取り組んでいます。

本講座では社会動向や歴史的経緯を踏まえながら、協同組合運動の理論や非営利・協同セクターの実践(参加型福祉・たすけあい、ワーカーズ・コレクティブ運動、エネルギー、震災復興など)を学び、社会課題を解決する協同組合と非営利・協同セクターの展望について皆さんと考えていきます。

2023年
4月12日～7月19日
毎週水曜日／13:30～15:10
※全14回、5月3日は除く

@神奈川大学
横浜キャンパス
(横浜市神奈川区六角橋3-27-1)

※2023年度は上記会場で実参加での開催です
オンライン配信は行いません



参加方法：
上記の二次元コードから専用フォーム
にてお申し込みください

参加費：無料

<電話での申し込み・問い合わせ>

生活クラブ神奈川・政策調整部 ☎045-474-0985(月～金・祝／10:00-17:00)

生活クラブ生協・神奈川大学寄付講座

＜第1回＞ 4月12日

協同組合(生活クラブ生協)について

講師：①篠崎 みさ子／生活クラブ生協・神奈川理事長

②出口 裕明 担当教授

協同組合並びに非営利市民事業とはどのような組織か。出資金や剰余金のあり方、経営の考え方等の原則を、生活クラブ生協の日常の組合員活動を通じて説明します。また、組合員主権とはなにか、協同組合・NPOの参加・運営形態の違い等、本講座を受講するにあたっての基礎学習を行います。

＜第2回＞ 4月19日

地域社会に展開する協同組合の可能性

講師：三浦 一浩／公益財団法人生活協同組合総合研究所研究員

日本で多面的な生活課題、地域課題の解決と雇用を生み出している協同組合について、「生協は何故つくられたのか」をテーマに、その歴史的背景、設立過程を含めて事例を基に紹介します。また、なぜ現在の法制度が日本の協同組合組織の広がりを妨げているのか、協同組合法の問題点を概説します。

＜第3回＞ 4月26日

世界に広がる協同組合運動

——その今日的な意義と課題

講師：田中 夏子／元日本協同組合学会会長

協同組合とはいかなるものか。世界と日本の協同組合運動の歴史的変遷と到達点を概説します。そのうえで、世界的に高まっている協同組合に対する期待(SDGs等)にも触れながら、協同組合(非営利・協同セクター)の課題と展望について検証します。

＜第4回＞ 5月10日

食を取巻く課題と協同組合の役割

講師：村上 彰一／生活クラブ連合会会長

生活クラブ生協の事業と運動の取組みを、「生活クラブの消費材10原則」等を踏まえ、食料自給や食の安全(添加物、農薬、遺伝子組換え、放射能等)などの取り組み事例を通して、持続可能な開発目標(SDGs)の推進視点を含む共同購入運動や協同組合運動について紹介します。さらに、消費者、生産者の立場から、食の安全、農業保護、グローバル経済システムについて考えます。

＜第5回＞ 5月17日

「社会的連帯経済」とは何か？

講師：藤井 敦史／立教大学教授

グローバル資本主義は、格差・貧困を拡大し、少子高齢化・人口減少社会、気候変動を引き起こし、更にコロナ禍も引き起こしている原因と言えます。資本主義でもなく国家社会主義でもない、新たな経済のオルタナティブとして注目されるのが「社会的連帯経済」です。民主的な運営によって、人間の生活や自然との共生を重視した経済活動を行うことが特徴です。地域社会で生活に根ざしたオルタナティブな「経済」をいかにしてつくるか。生命や生活を支えるサブシステムズ経済としての社会的連帯経済と協同組合の価値について、またその理念・理論・実践について学びます。

＜第6回＞ 5月24日

生活者運動と政治参加

講師：坪郷 実／早稲田大学名誉教授

社会の構成員として一人ひとりの市民が自ら学び養うべき市民性の育成を目的とするシティズンシップ教育にも触れながら、公共政策づくりへの市民参加、政策提案活動などを踏まえ、市民自治のあり方や政治参加の課題について考えます。

＜第7回＞ 5月31日

①「レイドロー報告」の到達点と今日における課題

②中間振り返り

講師：半澤 彰浩／生活クラブ生協・神奈川専務理事

①レイドロー博士報告「西暦2000年における協同組合」(1980年)が出された時代背景と、協同組合の理念・原則を紹介します。また、同報告書が提起した協同組合の「思想の危機」と危機克服のための4つの優先分野について概説します。その上で、今日の社会をどうみるか、食・経済格差・人口減少・エネルギー等の問題を通して、協同組合の課題と展望に触れます。

②前半の概論の振り返りを行い、非営利市民事業、協同組合の理論や概念をさらに深めます。

＜第8回＞ 6月7日

少子・高齢・人口減少社会における日本の社会保障

講師：小川 泰子／(社福)いきいき福祉会理事長

今日の日本の人口減少社会の特徴と一連の社会保障(介護、医療、年金)改革の課題を概説し、子育てや生活困窮者に対する支援の強化が求められている状況と、公的福祉の限界性を共有します。そして、これからの時代の個人が尊厳をもった生き方・死に方、「福祉」とは何かを問題提起します。

＜第9回＞ 6月14日

再生可能エネルギーと協同組合

講師：佐野 めぐみ／生活クラブ生協・神奈川副理事長

生活クラブ生協のエネルギー自給圏づくりに向けた取り組み(脱原発社会、CO₂削減、エネルギー自治、再生可能エネルギーの発電施設の建設等)を紹介するとともに、地球温暖化問題を踏まえ、日本の自然エネルギー普及の現状及び環境政策の課題を考えます。

＜第10回＞ 6月21日

東日本大震災からの復興を進める新しい協働

——NPOと生活協同組合

講師：吉田 菊恵／公益財団法人共生地域創造財団事務局長

人と人とのつながりが基本である協同組合は、東日本大震災とその後の復興への取組みにあたり、大きな役割を果たしてきました。活動の経験から培われた支援の考え方および現在も震災復興に取組む「非営利・協同」による実践や課題を学びます。

＜第11回＞ 6月28日

市民による参加型福祉と社会的包摂の取組み

講師：①生活クラブ生協・神奈川副理事長

②希代 監／生活クラブ生協・神奈川常務理事兼

たすけあいネットワーク事業部部長

少子高齢・人口減少社会が急速に進み、私たちは様々な生活リスクにさらされています。今日の社会情勢を踏まえつつ、生活クラブ生協の共済活動の取り組みを学びます。また、生活クラブ生協の活動の延長として参画している一般社団法人フードバンクかながわの取組みなどを紹介します。

＜第12回＞ 7月5日

協同組合原則を基盤とした新しい働き方の可能性

講師：木村 満里子／神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会理事長

同組合原則を基盤とした雇われない働き方であるワーカーズ・コレクティブ(W.Co)とは何か。その歴史、価値と原則、特徴、課題をDVDも活用し学びます。またW.Coの起業の流れ、事業・運営について事例を踏まえ、居場所・たまり場などの取組みも紹介し、これからの運動のあり方を展望します。

＜第13回＞ 7月12日

若者の就労支援や、地域で雇用創出にチャレンジするワーカーズ・コレクティブ運動

講師：松川由実／NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会専務理事

困難を抱えた若者たちとの共働・共生をめざす、W.Co協会の誕生経緯、これまでに若者や生活困窮者等を対象とした就労支援事業、居場所や働き場づくり等の取り組みを、「はたらっく・ざま」が日本協同組合学会実践賞を受賞したことも含めて紹介します。またW.Coによる支援の課題や今後の展望について考えます。

＜第14回＞ 7月19日

①生活クラブ生協で働くということ

②全体まとめ

講師：①林口 和恵／湘南生活クラブ生協専務理事

②篠崎 みさ子／生活クラブ生協・神奈川理事長

①生活クラブ生協職員からの報告および提起を通して、協同組合を形づくっている多様な働き方や意義について考えます。

②講座全体を振り返り、歴史的な大転換期を迎えた世界における非営利・協同セクターの今日的意義に関する理解、見識を深めます。